幼少期における子どものコミュニティへの参加の可能性

― 米国サービス・ラーニングの実践分析から ―

太　町　　智
（浜松学院大学短期大学部　幼児教育科）

A Study of Participation in Community for Early Childhood and Elementary School Children

Satoshi OHMACHI
(Department of Early Childhood Education, Hamamatsu Gakuin University Junior College)

はじめに

人間は，生まれてからおよそ８歳になるまでの間に，身体的な発育だけにとどまらず，精神的，そして学習面においても大きく発達する。この長期に渡る「子ども時代」は，「社会の複雑さを理解しその中で生活するための重要な準備期間」[1]である。この時期には，社会的なステータスを自らの力で獲得するための学習が求められる。このような学習をどのように進めるかについては，以前から多くの議論があるが，子どもが様々なコミュニティ[2]に市民（構成員）として能動的に参加する学習活動が求められている。[3]

日本においては，平成元年から全面実施された生活科に加え，平成10年には総合的な学習の時間が新設され，多くの学校で地域のコミュニティとかかわる取り組みが実践されるようになった。生活科では，「町探検」として，どの学校でも子どもたちが地域の様々な場所を調べたり，地域の人々とかかわったりする活動が行われている。しかし，形式的なインタビューやまとめる活動に終始する実践も少なくなく，子どもたちが主体的に地域に参加したり，地域のよさや課題に目を向けたりする実践は限定的である。

米国では，「学習を充実させ，市民的な責任を教えるとともに，コミュニティをよりよくするために，コミュニティサービスとアカデミックな学習とを統合する教授と学習のアプローチ」[4]として，サービス・ラーニング(Service-Learning)が実施されている。1990 年ごろから様々な組織によって，その定義や質に関する基準が開発されてきた。筆者は，拙論「EBCC チャータースクールにおけるサービスラーニングについての研究―生活科・総合的な学習の時間における地域社会への参加の充実のために―」[5]において，カリフォルニア州のEBCC(East Bay Conservation Corps)チャータースクール[6]で実際に取り組まれた実践をもとに，サービス・ラーニングのプロジェクトやその評価ついて検討し，生活科や総合的な学習の時間における地域社会への参加の在り方について，プロジェクトのデザインや評価の方法など，様々な示唆を得た。本研究では，サービス・ラーニングの実践分析を通して，幼少期における子どもの参加の取り組みに焦点を当て，特に幼稚園から小学校低学年段階の子どもたちの発達段階に合った有効なコミュニティへの参加の在り方について検討することにした。

Ⅰ　日本の教育課程におけるコミュニティへの参加

幼少期の子どもがコミュニティとかかわることが，教育課程においてどのように扱われているか，『幼稚園教育要領解説』及び『小学校学習指導要領解説生活編』から分析する。

幼稚園の教育課程の中でコミュニティとかかわる活動が想定される領域は，人とのかかわりに関する「人間関係」及び身近な環境とのかかわりに関する「環境」である。

人間関係では，教師や友達とのかかわりに関する事項に加え，「高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを

もつ」[7]ことが内容に示されている。

環境では,「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」[8]内容において,地域の人々の営みの中にある季節感を感じ取らせること,「生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」[9]内容において,図書館や高齢者福祉施設などの様々な公共の施設を訪問したり利用したりすることを通して,「そこで気付いたり,発見したりしようとする環境にかかわる態度」[10]や公共心を養うことをねらいとしている。

生活科では,内容(3)「地域と生活」,内容(4)「公共物や公共施設の利用」及び内容(5)「季節の変化と生活」において,地域のコミュニティとかかわることが想定される。

内容(3)では,「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かる」[11]「それらに親しみや愛着をもち,人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする」[12]こと,内容(4)では,「身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かる」[13]「それらを大切にし,安全に気を付けて正しく利用することができる」[14],内容(5)では,季節や地域の行事にかかわる活動を行うことで,「四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付く」[15]「自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる」[16]ことをねらいとしている。

また,内容(1)「学校と生活」及び内容(2)「家庭と生活」では,教師や学校の仲間,家庭といった子どもにとってより身近なコミュニティを対象としており,これらの内容もコミュニティとかかわるものと考えることができる。

以上の分析から,幼稚園や小学校低学年における身近なコミュニティとかかわる教育活動は,表1のように整理される。[17]表1から,幼稚園及び小学校低学年の教育課程で,教師や友達だけでなく,地域の人々や事物をかかわるコミュニティの対象としていることが分かる。これらの学年段階におけるコミュニティとかかわるねらいについては,次のようにまとめることができる。

- 身近なコミュニティの人々や事物に興味や関心,親しみ,愛着をもつ。
- 社会生活を営む上で必要となる習慣や態度を身に付け,自分たちの生活をよりよくしようとする。

Ⅱ サービス・ラーニングで期待される「市民的なリテラシー」

EBCC チャータースクールには,幼稚園部(Kindergarten)[18]から第5学年の子どもたちが在籍し,それぞれの学年段階に応じたサービス・ラーニングに取り組んでいる。

サービス・ラーニングでどのような資質や能力,態度を育むかについては,各学校で地域や子ども

表1 幼稚園及び小学校生活科におけるコミュニティとのかかわりと期待する資質や能力及び態度

	領域及び内容	かかわるコミュニティの対象(学習対象・学習活動等)	期待する資質や能力及び態度	
			思考・認識等	能力・態度等
幼稚園	領域「人間関係」	□ 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 □ 協同の遊具や用具を大切にし,みんなで使う。 □ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。		□ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
	領域「環境」	□ 生活の中で,様々な物に触れ,その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 □ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 □ 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。		□ そこで気付いたり,発見したりしようとする環境にかかわる態度を育てる。 □ 公共心の芽生えを培う。
小学校生活科	内容(3)「地域と生活」	□ 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かる。		□ それらに親しみや愛着をもち,人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。
	内容(4)「公共物や公共施設の利用」	□ 公共物や公共施設を利用する。	□ 身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かる。	□ それらを大切にし,安全に気を付けて正しく利用することができる。
	内容(5)「季節の変化と生活」	□ 季節や地域の行事にかかわる活動を行う。	□ 四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付く。	□ 自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。

の実態を踏まえ検討することになっている。EBCC チャータースクールでは，個人的，社会的，そしてモラル的な発達を促進する「市民的な取り組み」の重要性については理解されていたものの，具体的にどの程度，小学校において市民的な取り組みを行うかについては，様々な意見が存在した。アメリカにおいても，市民的な取り組みに関する研究や実践の多くは，主としてミドルスクース（中等学校）やハイスクール（高等学校）のものであり，小学校の子どもたちが市民的な概念や取り組みについて理解することは，発達上難しいと考えられてきた。

EBCC チャータースクールの教師は，子どもたちに，民主的で多元的な社会における課題や機会，責任について準備しなければならないという確たる信念のもとにつくられた学校として，幼稚園部のような幼い段階においても，現在及び未来の市民的な取り組みに不可欠かつ重要な態度及びスキルを促進することができると信じていた。そこで，各学年の担任の教師の協働によって，市民的な取り組みでの学年段階ごとの「期待値」が確認された。

幼稚園部の教師は，以下のような，基本的な市民的な技能や行動に焦点を合わせていた。

- コミュニケーションの技能を身に付ける。
- 他者と（物や場所を）共有する。
- 問題を解決する。
- 他者について自覚する。
- グループワークに参加する。[19]

EBCC チャータースクールでは，子どもたちに期待するリテラシーのルーブリックを作成している。アカデミックなリテラシーについてのルーブリックは，カリフォルニア州全体の内容基準に基づいて作成しているが，表２の市民的なリテラシーについてのルーブリックは，保護者の声も反映し，教師によって作成された。[20] EBCC チャータースクールでは，「個人的な責任（責任のある行動，ワークの習慣）」「他者やコミュニティのケア（他者への関心，グループやコミュニティへの関心）」「リーダーシップ」を子どもたちに育てたい「市民的なリテラシー」としている。

Ⅲ　サービス・ラーニングにおけるコミュニティへの参加の実践事例

表３は，EBCC チャータースクールのサービス・ラーニングのカリキュラム単元の要約一覧表である。[21]

表３　EBCC チャータースクールのサービス・ラーニングのカリキュラム単元の要約一覧表（幼稚園部についての抜粋）

【幼稚園部】クラスのテーマ「養育と成長」

プロジェクトのテーマ	コミュニティのパートナー	学習の成果			子どもの評価の方略
		学問的な内容や知識	倫理観，価値観及び精神的な発達	市民性・市民的な取り組み	
バディーリーディング・プロジェクト 学校や地域のガーデニング	ゴールデンゲート託児所 学校のコミュニティ	国語科：文字の認識，フォニックス，読む方法について学ぶ 数学科：庭の活動を通して，数の認識を理解する 社会科：時間と空間について学習する	・他者を尊重する方法を学ぶ ・地域をケアする ・あなたが知っていることを共有する	・学校を肯定的な経験をして見る ・肯定的な役割モデルとなる方法を学ぶ ・基礎的な技能を獲得する	・言語的な振り返り ・「良いリーディングバディになる方法」の本 ・『はらぺこあおむし』に基づく作品
市民的な技能の形成 学校のサービスの実践	学校のコミュニティ	国語科：読み方，書き方を学ぶ 社会科：自分自身，家族，コミュニティについて学ぶ	・他から自分を見る ・他者に同情する ・助力者になる	・学校のコミュニティのケアをする ・基礎的な技能を獲得する	・クラスの議論を通した，公式でなく，組織立てられていない言語的な振り返り ・地域のパートナーへの礼状
バディーリーディング・プロジェクト 姉妹校プロジェクト	学校のコミュニティ エクアドルの姉妹校	国語科：文字の認識や音声学，読み方や書き方について学ぶ 数学科：数え方や測り方を学ぶ 第二言語：スペイン語の導入	・尊敬の概念を学ぶ ・コミュニティをケアする方法を学ぶ ・すぐ近くの人々やずっと離れたところの人々についてあなたが知っていることを共有する	・学校を肯定的な経験をして見る ・相談相手になる方法を学ぶ ・基礎的な技能を形成する	・クラスの議論を通した，公式でなく，組織立てられていない言語的な振り返り ・「私について」の本 ・「ABC アルファベット」の本 ・学校全体の「サービスのお祝い」のイベントでのワークの最終的な展示

本稿では，幼少期の子どものコミュニティへの参加の可能性を探るために，幼稚園部で取り組まれた,「市民的な技能の形成―学校のサービスの実践」及び「バディーリーディング・プロジェクト」の実践記録について紹介する。

【事例１】 市民的な技能の形成
―学校のサービスの実践―

サービス・ラーニングを初めて体験する，この経験豊かな幼稚園部の教師は，新しい学年のスタートにあたり，小規模かつ単純で，子どもと教師自身双方にとって「成し得る」ことができるプロジェクトを選択することによって,「地に足のついた状態」となることを望んでいた。彼女は，市民的な活動に幼い子どもが従事することについて，強い自分の考えをもっていた。多くの幼い子どもが，あらゆる活動に従事したり，集中し続けたりするのに必要となる技能や発達のレベルが欠けていると感じていた。彼女は，教室や学校のコミュニティにおいて，市民的に何かに従事する技能を練習したり発達させたりすることは，外へ出ることや，大きなコミュニティで働くことと同じく，まさに重要なことだと感じていた。彼女の目的は，肯定的な学校文化を構築するために，学校への所有の感覚を感じさせることと，子ども自身，そしてクラスの責任の感覚を発達させることであった。

【学年】 K（幼稚園部）

【目標】

- 学校全体のサービスに従事する。
- 教室を越えた責任の感覚を発達させる。
- より大きな学校のコミュニティに貢献する重要性が分かる。
- 協同して働くスキルを発達させ，実践する。

【かかわるコミュニティの対象とその役割】

- EBCC に基づいたサービス・ラーニング，及び全国的なサービスプログラム…カリキュラムのリソースを提供し，支援する。
- オークランド小児科病院の健康ホール…校外学習の場を提供する。
- チルデン広域公園，イースト・ベイ広域公園地域…校外学習の場を提供したり，栽培単元の達成に貢献したりする。

【実践の計画表】

	活動内容
準備	・ 教師は，助力者になる意味について，子どもと議論する。 ・ 教師は，子どもに，コミュニティの一部であることが何を意味するかという議論や，コミュニティの他者を支援することに従事させる。 ・ 子どもは，学校の役に立つためにできることについてブレーンストーミングする。
実施	・ 子どもは，クラス集会と学習の協働を実行するような様々な市民的な取り組みの活動に従事する。 ・ 子どもは，毎日の種まきや植物への水やり，出席集め，毎月の学校の掃除のような様々なサービスの活動に従事する。
振り返り	・ 教師は子どもに，口述の振り返りやデッサンに従事させる。 ・ 教師は子どもと，報酬，利益，貢献に加え仕事の重要性について議論する。
実演とお祝い	・ 毎日の植物への水やり ・ 毎日の教師の出席を集めたもの ・ 忘れ物取扱所のシステムを発展させるような全体的な学校の掃除及びその組織

【実践内容】

幼稚園部の教師は，毎朝，学校の事務職員が出席簿を集めながら教室から教室へ駆け回っており，そのために，学校の事務所に訪れた親からの直接の問い合わせや電話に応答することができていないことに気づいた。教師は，このニーズが，子どもが学校の機能において重要な役割として貢献するための理想的な機会を提供すると考えた。教師は，子どもをペアにし，毎週交代で出席簿をすべて集めて，学校の事務所にそれらを引き渡すようにした。この仕事の責任は，幼稚園児が，教師たちから集めてきた出席簿の教師の名前をチェックして印をつけることを要求されたために，子どもを市民的な義務に取り組ませるだけでなく，読み書きのスキルを強化した。教師と事務職員は，出席表を提出する子どもを信頼するようになった。そして，この仕事を終えたとき，彼らの学校における役割に対する責任の感覚を子どもに刻み込んだ。

この観念に基づいて，幼稚園部の教師は，子どものために学校の構内の美化に貢献する月１回の学校の掃除に子どもを導くことで，もう一つのサービスを加えた。

子どもは，休み時間や昼食の時間の後にごみを片付けること，玄関を清潔に保つこと，植物に水をやること，忘れ物取扱所を維持することを依頼された。

その年の終わりまでに，子どもは人を助ける意味や責任の取り方について学んだ。大小様々な仕事を引き受けることによって，子どもは，コミュニティの生活に参加するために準備された，価値のあるリーダーシップの技能や価値観を獲得した。[22)]

【事例２】バディーリーディング・プロジェクト

バディーリーディングとは，ペアになって本を読んだり紹介し合ったりする活動である。EBCC チャータースクールでは，この活動をサービス・ラーニングの中核として実践している。ここで紹介するのは，幼稚園部の２回の取り組みである。１回目の取り組みでは，第４学年の子どもとバディをつくり，第４学年の子どもをモデルとして就学前の子どもとかかわったり，地域の図書館で劇を演じたりする。本実践は，エクアドル出身の幼稚園部の教師が，「幼い子どもが，ずっと遠くの人々と友人となることは可能か」と考え，実践したプロジェクトである。

【学年】K（幼稚園部）

【目標】

- 本作りを通して，リテラシーの技能を形成する。
- 様々な人々が，どのように様々な場所で生活しているかについての自覚を発達させる。
- 仲間になる方法を学ぶ。

【かかわるコミュニティの対象とその役割】

- 本作りの芸術家…子どもに本の作り方を指導するゲストを提供する。
- エクアドルの学校…EBCC チャータースクールとのパートナーシップを提供する。
- EBCC チャータースクールの第３学年のクラス…バディーリーディング・プロジェクトの助言者となるバディを提供する。

【実践の計画表】

	活動内容
準備	・ 教師は，エクアドルの姉妹校と連絡を取る。 ・ 教師は，ゲストの芸術家に編集についての授業をしてもらうために，スケジュールを調整する。 ・ 教師は，仲間になることが何を意味するか，そして，近くや遠くの人と親しい仲間になる方法について，子どもと議論する。
実施	・ 子どもは，バディーリーディング・プロジェクトのためにバディとペアになる。 ・ 子どもは「ABC アルファベット」の本を作る。 ・ 子どもは「私について」の本を作る。
振り返り	・ 教師は，様々な場所に生活する人々の違いについて，子どもに議論させる。 ・ 子どもは，影響を及ぼすために自分たちができることについて議論する。
実演とお祝い	・ 子どもたちが作成した本は，年末の学校全体の「サービスのお祝い」のイベントにおいて展示される。 ・ 教師は，エクアドルの姉妹校に本を送る。

【実践内容】

このプロジェクトは，エクアドルの小さな町の友人との接触からプロジェクトをスタートし，互いの文化や人々について紹介する姉妹校のパートナーシップを創り出した。彼女は幼い子どものリテラシーの技能の形成の重要性を強調し，すぐにクラスの子どもと第３学年の子どもとをペアにする学校全体のバディーリーディング・プロジェクトに参加させた。学校において年長の子どもとペアを組むことは，子どもに彼らが知らない他の人々とのフレンドシップを形成することに従事する機会を提供した。

その年の間中，子どもたちは，様々な人々が様々な場所でどのように生活しているかについて議論した。教師は子どもに，様々なところで生活している人々が，何が同じで何が違うのか尋ね，様々な場所で生活している人々についての理解につながるような本を読んだ。また，教師は，自分の両親をクラスに招き，家族独自の文化やバックグラウンドについてのストーリーを話し，子どもと共有した。

教師は子どもに，他者の違いやフレンドシップを尊重するアイデアを紹介した後で，子ども

がこのことを他者と共有する方法について教えた。編集のプロジェクトに子どもが従事することで，教師は子どもがエクアドルの学齢期の子どもたちのための本を作成する機会を創り出した。教師は，編集のプロジェクトを紹介し，簡単な折りたたむ技術を教える中に，数えたり測ったりする数学の基準を組み込んだ。その年の終わりまでに，教師のクラスは，エクアドルの姉妹校の仲間に送るために，アルファベットの本や「私について」と題されたバディブックを編集した。これには，子どもが住んでいる場所や好きな食べ物をはじめ，それぞれの子どもについての写真や情報が含まれていた。[23)]

Ⅳ　幼稚園及び生活科におけるコミュニティへの参加の在り方

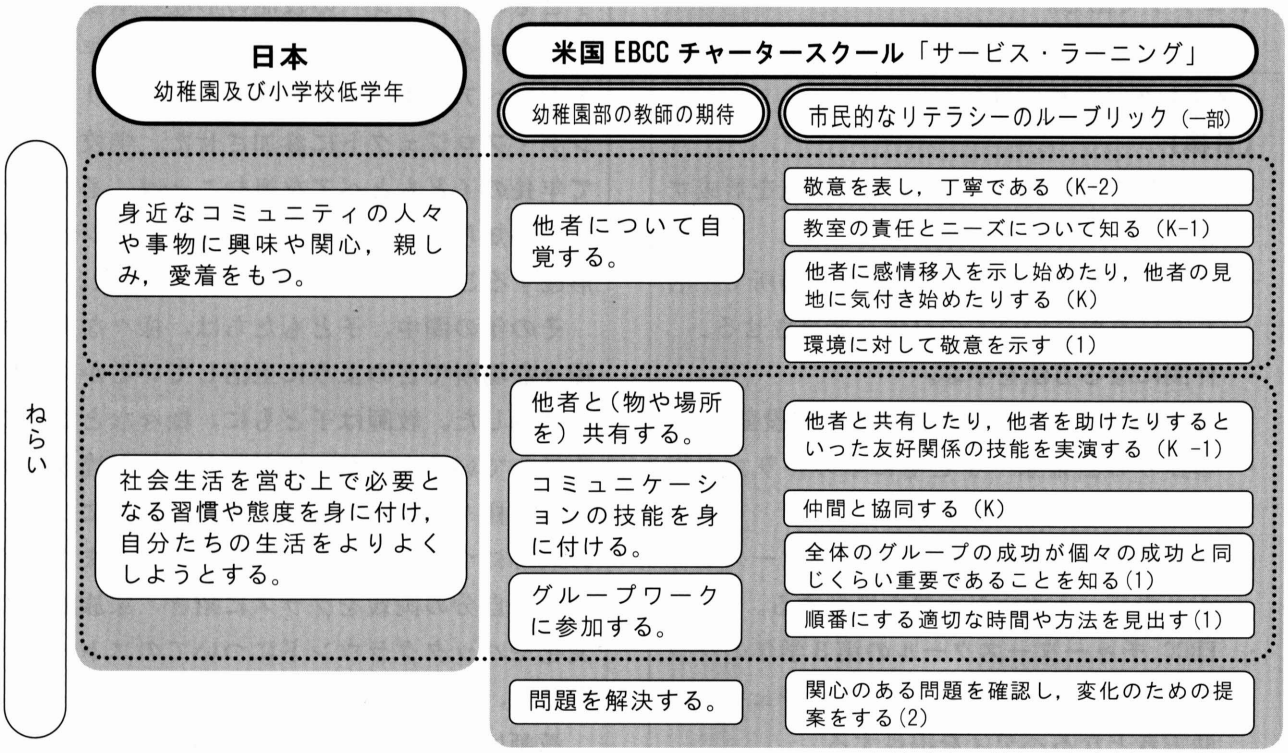
ここまで，日本の幼稚園及び小学校低学年，そしてサービス・ラーニングにおける幼少期の子どもがコミュニティに参加する目的や現状について明らかにしてきた。本章では，日米両国の参加の目的の違いに言及しながら，日本における幼少期の子どもの参加の在り方について検討する。

○コミュニティを広げる

図は，幼稚園及び小学校低学年と幼稚園部のサービス・ラーニングのねらい，そして，市民的なリテラシーの中でも，特にコミュニティとのかかわりにおいて重要と考えられる「他者やコミュニティへのケア」についての共通点や相違点をまとめたものである。図から分かるように，サービス・ラーニング，幼稚園教育及び小学校生活科ともに，コミュニティへの関心をもたせたり，それを高めたりすることがねらいになっている点は共通している。生活科が大切にする地域への親しみや愛着は，関心が更に高まったものであると考えられる。

事例１のプロジェクトの出発点は，学校のコミュニティへの参加である。大きなコミュニティで持続的，継続的なサービス，学習をしていくためには，子どもたちに一定以上の能力が求められる。そこで，教師は，より身近なコミュニティに子どもたちを参加させたのだろう。そのため，子どもたちは，学校のニーズを理解し，ニーズに応じた参加を継続的に実践することができた。このようなニーズに応える参加を通して，子どもたちは参加するプロジェクトに所有権の感覚をもったり，責任を感じたりするようになる。

後に，月１回の学校の掃除，休み時間や昼食後のごみの片付け，玄関の清掃，植物への水やり，忘れ物取扱所の運営など，サービスは拡大されて



※（ ）内は学年を表す(K…幼稚園)

図　幼稚園及び小学校低学年とEBCC 幼稚園部の教育の共通点及び相違点

いる。これは，サービスの拡大である一方で，かかわる人，そしてコミュニティの拡大でもある。他者への意識や見地への理解は，より大きなコミュニティにかかわっていくためには不可欠である。このプロジェクトは，校外学習や栽培活動などへと発展していくが，子どもたちの市民性の向上にともない，かかわるコミュニティも広がっていく。

事例２は，学校内でのバディーリーディングが，学校を超えた遠く離れた地にまで広がっている。幼稚園部で身近でない地域の人やその生活にまで関心をもち，交流をしている。幼い子どもが離れた相手に対してどれだけ親しみをもつことができるのかということについては議論を要する。しかし，この活動の目的は，離れた相手に対する見地をもつと同時に，自分たちとの違いに気付き，さらには，自分たち自身のことについて深く知ることにある。

このことは，幼稚園でも多様な人々とかかわる活動が可能であることを意味している。しかし，日本において，多様な人々とかかわる目的は「自分への気付き」であり，子どものコミュニティの拡張が目的ではない。子どもにとってかかわる必然性や必要性がある相手を教師が選択し，その相手を通してコミュニティを広げることが有効だといえる。

○サービスと問題解決

図から分かるように，幼稚園及び小学校低学年では，問題解決について強調されることは少ない。なぜサービス・ラーニングでは幼稚園部においても問題解決に焦点が当てられるのか。この点については，サービス・ラーニングの特質に触れる必要がある。

サービス・ラーニングは，その名のとおり，サービスを軸として展開される学習活動である。サービスは「奉仕」と訳されることが多く，日本ではボランティアと同義に捉えられる傾向にある。しかし，サービスには，ボランティアがもつ自発性，無償性，公益性といった性質に加え，サービスそのものが自己への内省を促進し，その内省が地域や国家への関心や具体的な行動へとつながっていくと考えられている。したがって，深い内省の有無が，サービスとボランティアを分けるものだといえる。

さて，先に述べた「問題解決」は，サービスと大変関連が深い。問題解決のパラダイムには，次の５つの基本的なステップが含まれる。

> ① 問題を確認すること
> ② 可能な解決策について意見を出し合うこと
> ③ 一つの解決策を選択すること
> ④ その解決策を試すこと
> ⑤ 結果を評価すること[24)]

このアプローチにおける結果の評価は，先に述べた深い内省に相当する。

事例１のプロジェクトでは，学校の出席簿の管理についての問題がスタートとなっている。教師は，準備段階において，子どもたちが助力者になる意味やコミュニティの意味について議論したり，学校に貢献するための方法についてブレーンストーミングしたりする機会を保障している。そして，出席簿の管理という学校の問題を解決するために，子どもたちは自らの仕事として，責任に負う形で出席簿を集め，学校に貢献した。この過程を通して，子どもたちは大人から当てにされ，信頼されることになった。彼らの自己肯定感は大いに高まっただろう。問題解決のアプローチは，子どもが自分の考えをはっきりと表現し，自分の行為に責任を負うことが求められる。そして，子どもたちの向社会的で対人的な技能を促進する。

米国のサービスを日本の学習活動に取り入れることや，幼児期に問題解決的な活動に取り組むことの是非については，議論を要する。しかし，子どもたちとコミュニティとの関係が密接になれば，コミュニティの問題に目を向け，その解決に向けて行動することは十分可能である。さらに，その結果について，自分たちなりに振り返り，次の行動に移すこともできるであろう。このことが，自分たちの生活をよりよいものにしていくことにつながっていく。子どもの能力を過小評価することなく，子どもたちが感じている身近なコミュニティの問題に気付くことのできる教師の能力が求められる。

おわりに

以上，サービス・ラーニングの分析を通して，

幼稚園から小学校低学年段階の子どもたちの発達段階に合った有効なコミュニティへの参加の在り方について検討した。

幼少期における「遊び」は，子どもの発達課題ともいえるものであり，子どもが身近な環境に働きかける，すなわち参加する大切な機会である。幼稚園では遊びの重要性については十分認識されている。しかし，活動や環境構成に子どもの声が十分に反映されていない事例もしばしば見受けられる。幼稚園においても，身近な環境のデザインやマネージメントに参加する機会をあらゆる場面で設定していくことが重要である。

幼少期の子どもにとって，このような参加を可能にする最も身近な場面は，動物の飼育や植物の栽培といった活動であろう。また，学校や地域等の遊び環境のデザインやマネージメントにかかわることも考えられる。これらの活動は，子どもたちにとって最も身近な参加である。

幼少期においては，遊びを通して，継続的な活動に取り組むことのできる土壌づくりが肝要であろう。そして，遊びのフィールドを地域にまで広げたり，園内や地域の中で何らかの役割を担ったりすることで，遊びが発展すると同時に，子どもたちのかかわるコミュニティに広がりや深まりが生まれると考えている。

近年，地域コミュニティの基盤の脆弱化を指摘する声が日増しに高まっている。この基盤を強化していくことは大変重要なことだと考えるが，まずは脆弱化した地域コミュニティの中で，子どもたちに様々なコミュニティに参加するための基盤を築くことが優先されるべきではないだろうか。

〔付記〕

本小論は，日本生活科・総合的学習教育学会第20回全国大会岐阜大会（平成23年）における自由研究発表を加筆修正し，論文としてまとめたものである。

【注】

1）Liz Wood, Participation and Learning in Early Childhood., Cathie Holden and Nick Clough, *Children as Citizens.*, Jessica Kingsley Publishers, 1998, p. 31

2）ここでは，家庭や学校，学級，地域社会といった子どもが所属する大小様々な集団の総称してコミュニティ(community)と呼んでいる。

3）コミュニティへの参加の意義や有効性に関する研究は数多く存在するが，代表的なものとしては以下のものがある。

・Roger A. Hart, *Children's Participation: The Theory and Practice of Involving Young Citizens in Community development and Environmental Care.*, UK: Earthscan Publications, 1997

・David Driskell, *Creating Better Cities with Children and Youth.*, UK: Earthscan Publications, 2002

4）A Report From the National Commission on Service-Learning, *Learning In Deed.*, 2002, p. 15

5）太町智「EBCC チャータースクールにおけるサービスラーニングについての研究—生活科・総合的な学習の時間における地域社会への参加の充実のために—」愛知教育大学生活科教育講座紀要『生活科・総合的学習研究』第3号，2005年，33～40頁

6）EBCC チャータースクールにおけるサービス・ラーニングについては，以下の資料が詳しい。
East Bay Conservation Corps, *Service- Learning As Civic Engagement: A Resource Guide for the Elementary Grades*, 2003

7）文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008年，107頁

8）同上書，124頁

9）同上書，131頁

10）同上書，121頁

11）文部科学省『小学校学習指導要領解説生活編』2008年，27頁

12）同上書，27頁

13）同上書，29頁

14）同上書，29頁

15）同上書，31頁

16）同上書，31頁

17）表は，『小学校学習指導要領解説生活編』23頁に示された「生活科の内容の全体構成」をもとに，筆者が幼稚園の教育内容を分析し書き加えたものである。なお，生活科の内容(5)に関しては，本稿の趣旨に合わせて一部修正した。

18）米国の小学校では，日本の幼稚園の5歳児に相当する“Kindergarten”に就学することが一般的であり，教育課程にも組み込まれている。“Kindergarten”は一般的に「幼稚園」と訳されるが，本稿では，日本の教育機関としての幼稚園との混同を避けるため，「幼稚園部」と訳した。

19）East Bay Conservation Corps, *op. cit.*, p.41

20）*Ibid.*, pp.87-89
ルーブリックは学年ごとに作成されているが，ここでは各学年の違いをわかりやすくするため，筆者が1つにまとめて示した。

21）*Ibid.*, p.34

22）*Ibid.*, pp.41-44

23）*Ibid.*, pp.45-48

24）Liz Wood, Participation and Learning in Early Childhood., Cathie Holden and Nick Clough, *Children as Citizens.*, Jessica Kingsley Publishers, 1998, p.42

表２　EBCC のチャータースクールの市民的なリテラシーのルーブリック（幼稚園～第２学年）

学校全体の期待		学年段階の期待		
		幼稚園	第１学年	第２学年
個人的な責任	責任のある行動 ・良識を働かせる ・行動を自己制御する ・自分の行動の責任を受け入れる ・行為がどのように他者に影響を与えるかについて気付いている	・刺激を少なくしたり，行動を自己制御したりすることができる ・反省的で，自分が何を，なぜしているかについて考える ・休み時間の間に，トイレを使い，水を飲む ・「正しいこと」についての意見をもち，報告する ・個人的な目的を設定し，達成する ・正直である ・敬意を表して素材を使う	・刺激を少なくしたり，行動を自己制御したりすることができる ・反省的で，自分が何を，なぜしているかについて考える ・葛藤のある状況で，その問題の一部を引き受ける ・休み時間の間に，トイレを使い，水を飲む ・「正しいこと」についての意見をもち，報告する ・個人的な目的を設定し，達成する ・正直である	・行為を自分のものとする ・行為について考え，衝動について振り返り，成長するよう努力する ・刺激を少なくしたり，行動を自己制御したりすることができる ・葛藤のある状況で，その問題の一部を引き受ける ・表現したり，ニーズを満たしたりする適切な時間や場所を選択する
	ワークの習慣 ・課題を持ち続ける ・割り当てられた課題を完了する ・独力で取り組む ・最善の努力を示す ・指示を聞き，従う	・課題を持ち続ける ・授業や宿題で割り当てられた課題を完了する ・指図に従う ・少なくとも５分間独力で取り組む ・ワークを成功させることに誇りをもつ ・良い努力を示す	・教室のルールや手順をわかりやすく表すことができ，指図に従う ・課題を持ち続ける ・授業や宿題で割り当てられた課題を完了する ・少なくとも 20 分間独力で取り組む ・ワークを成功させることに誇りをもち，常に良い努力を示す ・敬意を表して素材を使い，作業する場所を整理する	・課題を持ち続け，課題からそれたとき，再び焦点を定めることができる ・授業や宿題で割り当てられた課題を完了する ・指示に従う ・少なくとも 20 分間独力で取り組む ・ワークを成功させることに誇りをもつ ・良い努力を示す ・一人で，あるいは人手を借りて，次の課題に取りかかることができる ・敬意を表して素材を使う ・作業する場所を整理する
他者やコミュニティへのケア	他者への関心 ・敬意を表し，丁寧である ・感情移入を示したり，他者の見地を獲得したりする ・他者と協同したり，協働したりする ・進んで解決に取り組む	・敬意を表し，丁寧である ・他者と共有したり，他者を助けたりするといった友好関係の技能を実演する ・仲間と協同する ・他者に感情移入を示し始めたり，他者の見地に気付き始めたりする	・敬意を表し，丁寧である ・他者の感情に共感を示す ・環境に対して敬意を示す ・他者と共有したり，他者を助けたりするといった友好関係の技能を実演する ・友好関係を発達させ，価値付けることができる	・共感を示し，また，他者が困っているときに進んで助けようとする ・自分たちの行為がどの程度他者に影響を与えるかについて考え，この自覚に基づく意思決定をする。 ・敬意を表し，丁寧である ・他者が何を，なぜするのかについて理解するために，他者の見地を受けとめる ・親切な方法で話す
	グループやコミュニティへの関心 ・教室や学校，より大きな環境に対する敬意を示す ・グループやコミュニティの問題やニーズを確認することができる ・グループの成功が個々の成功と同じくらい重要であることを知っている ・行為がどのように他者に影響を与えるかについて気付いている	・教室の責任とニーズについて知る	・他の子どもが傷つけられたり助けを必要としていたりするときに援助する ・教室の責任とニーズについて知る ・全体のグループの成功が個々の成功と同じくらい重要であることを知る ・順番にする適切な時間や方法を見出す	・共通のプロジェクトを取り組むことで，仲間や他者と協同する ・グループの目的を達成するために他者を助け，グループ全体の成功が個々の成功と同じくらい重要であることを知る ・グループのニーズと個人的なニーズとのバランスをとる ・関心のある問題を確認し，変化のための提案をする
リーダーシップ	・問題解決の技能を実演する ・コミュニケーションの技能を実演する ・イニシアチブを取る ・役割モデルとしての機能を果たす ・他者の意見にオープンである一方で，正しいと考えることを言うことができる	・自分から進んで他者と交流する ・問題解決の技能を実演する	・自分から進んで仲間や年長者を含めた他者と交流する ・リスクを負い，間違いを犯すことを恐れない ・「私の前で，３つのことを尋ねなさい」といった，問題解決やコミュニケーションの技能を実演する	・自分から進んで他者と交流したり，意見を言ったり，行動を起こしたりする ・他者の意見にオープンである一方で，自分が正しいと考えていることを言うことができる ・「私の前で，３つのことを尋ねなさい」いった，問題解決やコミュニケーションの技能を実演する ・自ら実例を示してリードし，自分が「正しい」とわかっていることに従う